

令和 2年 6月 15日

第827号



ヤマダ総合公認会計士事務所

代表 山田 良平

〒124-0012

東京都葛飾区立石 1-12-11 ヤマダビル

TEL : 03-3694-6091 FAX : 03-3691-6680

ミニかわら版

(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

3月末時点の「国の借金」、過去最大の1114.5兆円

財務省がこのほど公表した、令和2年3月末時点での国債や借入金などを合計した「国の借金」は、前年度末（平成31年3月末）からは11兆1856億円増えて1114兆5400億円となり、4年連続で過去最大を更新したことが明らかになりました。

3月末の国の借金は、平成31年3月末に比べ、国債は約10.8兆円増の約987.6兆円で全体の約89%を占め、うち普通国債（建設国債＋赤字国債）は、約12.7兆円増の約886.7兆円となりました。その内訳は、長期国債（10年以上）は約24.3兆円増加して過去最大の約669.2兆円となったものの、中期国債（2年から5年）が▲約11.3兆円減の約163.7兆円、短期国債（1年以下）も▲約0.3兆円減の約23.8兆円となり、全体の増加を抑制しました。

この「国の借金」1114兆5400億円は、令和2年度一般会計補正後予算の歳出総額128兆3493億円の約8.7倍、同年度税収見込み額63兆5230億円の約17.5倍であり、年収500万円のサラリーマンが8750万円の借金を抱えている勘定です。また、わが国の今年4月1日時点での推計人口1億2596万人（総務省統計、概算値）で割ると、国民1人当たりの借金は、昨年3月末時点の約874万円から約885万円に増加しています。

わが国の公債残高（普通国債残高）は年々増加の一途を辿っていますが、令和2年3月末実績の公債残高は、平成31年度末見込み（補正予算ベース）の約897.8兆円から約886.7兆円程度にとどまりました。しかし、令和2年度末の普通国債残高は約932兆円が見込まれ、令和2年度一般会計税収予算額約64兆円の約15年分に相当し、国民1人当たり約740万円、4人家族で約2960万円にのぼり、将来世代に大きな負担を残すこととなります。

* 詳細はこちらからご確認いただけます。

「令和2年3月末現在の国債及び借入金等の現在高について」（令和2年3月末現在）（財務省）

<https://www.mof.go.jp/jgbs/reference/gbb/202003.html>